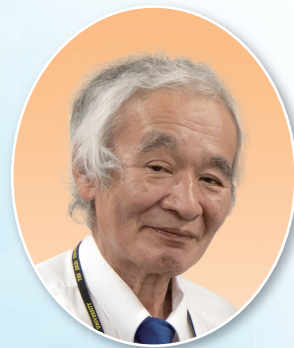


高い専門性を持つ看護師と共に 安心な医療を提供する ～皮膚疾患ケア看護師制度

中川 秀己 先生 あたご皮フ科 院長



日本皮膚科学会では、2018年4月に「日本皮膚科学会認定皮膚疾患ケア看護師制度」(以下、本制度)を発足させ、看護師が高度な皮膚科看護の知識を習得することで、患者がより安心できる医療の提供を目指しています。シリーズ「高めよう! 皮膚科外来診療の患者満足度」では、皮膚疾患ケア看護師の皮膚科診療における役割や実態などについて取りあげていきますので、シリーズ開始にあたって、今回はまず本制度の概要を紹介します。

本制度の目的と意義

本制度の目的は、「皮膚疾患のケアに関する優れた看護師を教育、育成することで、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医等と連携・協働して医療技術の進歩を図るとともに、皮膚科専門医等及び患者等との協力により医療水準の向上を図り、系統的治療により、国民の健康と福祉に貢献すること」とされています(図)。

皮膚疾患は寛解と増悪を長期間にわたり繰り返すことが多く、その治療には患者・家族を中心に据えたサポートが重要です。しかし医師一人の努力では十分なサポートを行うことは困難であり、診療に関わる多職種がそれぞれの能力を発揮する体制を構築することが、医療レベルの向上には欠かせません。また、患者満足度の向上には、正しい診断と効果的な治療が最も重要ですが、それには丁寧な患者教育、スタッフの接遇など様々な要因が関連します。中でも看護師は、皮膚科診療において診療の補助的行為にとどまらず、軟膏処置や患者教育などの場で重要な役割を担うことになります。そこで日本皮膚科学会では、上述の目的を掲げて、高度な皮膚科看護の知識を習得した看護師を「皮膚疾患ケア看護師」として認定する制度を開始しました。なお、本制度は日本看護協会の資格認定制度とは別の制度です。

専門性の高い看護師とは、皮膚の解剖生理、皮膚疾患の病態・治療・検査、皮膚科で行われる各種処置の意義と正しい施行、正しいスキンケアの手順などに精通した看護師ということであり、このような看護師の存在はアドヒア

ランスの向上にも繋がると考えられます。また、皮膚疾患ケア看護師が在籍していることで、医療機関は患者・家族に対して専門性の高い皮膚医療を行っていると認識させることができます。

これまで認定を受けた看護師の勤務先は、病院、クリニックに満遍なく分布しており、医療機関の規模や形態に関わらず、認定の取得が日々のケアに有用であることを示しています。

皮膚疾患ケア看護師を目指すには 一対象と資格

本制度の対象となるのは、「日本皮膚科学会認定皮膚疾患ケア看護師研修カリキュラム」相当のケアの知識及び経験を有し、通算3年以上皮膚疾患ケアに従事している看護師です。具体的には、

- (1) 皮膚疾患ケア指導患者名簿20例を有すること。
- (2) 上述の(1)にある20例のうち5疾患について、皮膚疾患ケア指導記録の記載があること。
- (3) 学会が主催する皮膚科スペシャリティナース講習会に2回以上出席した参加証を保有すること。
- (4) なお、皮膚疾患ケアに関する学術論文あるいは学会発表がある場合には、筆頭者に限り、1編あるいは1回につき、皮膚疾患ケア指導患者名簿から4例、皮膚疾患ケア指導記録から1例をそれぞれ差し引くことができるとされています。

看護師資格を持つ看護系教育機関の教員については、皮膚疾患の看護・ケアに関する講義、セミナー、演習、実地実習などの指導を行うことで、上記の(1)及び(2)の要件に代えることができます。

なお、審査に合格すると、認定証とピンバッジが授与されます。

審査と認定の有効期間

審査は年1回の書類審査により行われますが、申請には申請書や資格要件を満たすことを明らかにする書類のほか、皮膚科専門医の推薦書が必要です。

認定の有効期間は5年と定められており、再審査により更新されますが、再審査の条件は直近5年間に皮膚疾患ケアの従事歴があり、皮膚疾患ケア指導患者名簿10例以上を有すること等とされています。直近5年間に皮膚疾患ケアの従事歴がない場合には、直近5年間に日本皮膚科学会の皮膚科スペシャリティナース講習会に2回以上出席したことを示す参加証を持っていることが、再審査の条件とされています。

日本皮膚科学会認定皮膚疾患ケア看護師制度の目的

日本皮膚科学会認定皮膚疾患ケア看護師制度について

公益社団法人
日本皮膚科学会認定皮膚疾患ケア看護師規則

平成29年6月2日制定
平成29年9月1日改訂

(制度の目的)

第1条 公益社団法人日本皮膚科学会認定皮膚疾患ケア看護師制度は、皮膚疾患のケアに関する優れた看護師を教育、育成することで、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医(以下「皮膚科専門医」という)等と連携・協働して医療技術の進歩を図るとともに、皮膚科専門医等及び患者等との協力により医療水準の向上を図り、系統的治療により、国民の健康と福祉に貢献することを目的とする。

皮膚疾患ケア看護師制度委員会:
皮膚疾患ケア看護師制度。日本皮膚科学会ホームページ。
https://www.dermatol.or.jp/modules/biologics/index.php?content_id=41 (2021年8月4日アクセス)。

皮膚科スペシャリティナース講習会の受講方法と内容

従来、皮膚科スペシャリティナース講習会は、日本皮膚科学会総会での講演及び、東部、東京、中部、西部の各支部大会での講演の収録動画の上映により行われてきましたが、2021年の第120回総会では、新型コロナウイルスの感染拡大を受け講習会は中止となり、代わってインターネットを通じたe-learningによる講習会を実施する予定となっています。前回の第119回総会での講習内容は表に示す通りで、専門的な治療や処置を行っている医師、看護師、薬剤師などの講義により、従来の基礎知識の強化と新しい知識のインプットの両方が得られる内容となっています。

以上、「日本皮膚科学会認定皮膚疾患ケア看護師制度」について紹介しました。本制度が広がり、皮膚科専門医と皮膚疾患ケア看護師の連携によるより高い水準の医療が提供可能になり、患者の治療満足度のさらなる向上につながることを期待しています。

参考資料

- 1) 皮膚疾患ケア看護師制度委員会: 皮膚疾患ケア看護師制度。日本皮膚科学会ホームページ。
https://www.dermatol.or.jp/modules/biologics/index.php?content_id=40 (2021年8月4日アクセス)。
- 2) 佐藤博子: Visual Dermatol 2018; 17(2): 112-114.
- 3) 安部正敏, 佐伯秀久: Visual Dermatol 2018; 17(2): 115-117.
- 4) 鈴木真由美: Visual Dermatol 2018; 17(2): 177.

表 第119回日本皮膚科学会総会での スペシャリティナース講習会の内容

演題	講師
加齢による皮膚構造の変化	本田ひろみ 先生 東京慈恵会医科大学附属病院 皮膚科
乳幼児の皮膚疾患と外用指導	馬場直子 先生 神奈川県立子ども医療センター 皮膚科
皮膚科疾患患者と家族への支援について	藤井真樹 先生 川崎市立多摩病院 看護師
知らないナースがやってしまう残念な皮膚科ケア	安部正敏 先生 医療法人社団廣仁会 札幌皮膚科 クリニック

(各講演30分程度)

スペシャリティナース講習会ホームページ:
<https://gakken-meds.jp/jdab/>
(2021年8月4日アクセス)